

一 学 会 記 事 一

2024 年 一般社団法人日本鳥学会理事会 メール審議 (2024 年 2 月) 議事録

日時：2024 年 2 月 22-29 日
方法：電子メール (理事会メンバーリスト)
議長：綿貫 豊 (会長)
記録者：松井 晋 (理事)
メール審議参加者
理事の総数 7 名
理事回答数 4 名
綿貫 豊 (会長・代表理事), 嶋田哲郎 (副会長),
川上和人, 松井 晋 (事務局長)
監事の総数 2 名
内容を確認監事数 2 名 森口紗千子, 関 伸一
事務局 植田睦之 (会計幹事), 風間健太郎 (庶務
幹事)

メール審議の成立

定款第 35 条の規定に基づき, 綿貫 豊会長を議長とする理事会メール審議を実施した。理事 4 名からの回答を得て, 事務局より定款第 36 条に基づき本審議は有効に成立した旨を伝えた。次いで, 議長は, 定款第 38 条の規定により, 議事録署名人は議長及び内容を確認した監事を指名すべきことになっている旨を説明, 森口紗千子監事を指名し, 本人も承諾した。

1. 審議事項

- (1) 2024 年東京大会の参加費の一部変更について (大会実行委員会)
学生参加費の値下げと, オンライン聴講と発表の値上げが承認された。
- (2) 国立科学博物館で開催予定の特別展「鳥」の後援
特別展「鳥」の後援が承認された (後援申請書の提出が必要)。

2. 意見聴取事項

- (1) 保護委員会の要望書修正案 (鳥類保護委員会)
2023 年第 4 回評議員会で, 文章等を改訂した後に理事会 (旧評議員会に相当) に回覧して意見を受けたのち, 保護委員会委員長名で提出することが承認されていた海鳥の集団繁殖地における外来種対策に関する要望書の修正案を理事会で回覧し, 理事および監事からの意見を鳥類保護委員会に伝えた。

2024 年 第 1 回一般社団法人日本鳥学会 理事会議事録

日時：2024 年 3 月 13 日 9 時 30 分-12 時 25 分
場所：Zoom 会議
議長：綿貫 豊 (会長)
記録：風間健太郎 (庶務幹事), 松井 晋 (理事)
出席者
理事の総数 7 名
出席理事数 6 名
綿貫 豊 (会長・代表理事), 嶋田哲郎 (副会長),
川上和人, 高橋満彦, 早矢仕有子, 松井 晋 (事務局長)
監事の総数 2 名
出席監事数 1 名 森口紗千子
事務局 植田睦之 (会計幹事), 風間健太郎 (庶務
幹事)
オブザーバー 西海 功 (鳥類目録編集委員会委員
長)

開会

定款第 35 条の規定に基づき, 綿貫 豊会長が議長となり理事会を開会した。事務局より定款第 36 条に基づき, 定足数について, 理事 6 名が出席しており, 本日の会議は有効に成立した旨を告げた。

次いで, 議長は, 定款第 38 条の規定により, 議事録署名人は議長及び出席した監事を指名すべきことになっている旨を説明, 森口紗千子監事を指名し, 本人も承諾した。

1. 審議事項

- (1) 2023 年度決算について
会計監査の報告があり, 2023 年度決算が承認された。
- (2) 定款施行規則案
定款施行規則は文言修正を加えて最終版とし, 代議員総会の審議事項とすることが承認された。
- (3) 謝金・賃金規程案
- (4) 旅費規程案
謝金・賃金規程および旅費規程は文言修正後に代議員総会での報告事項とすることが承認された。
- (5) 科学研究費補助金事務にかかる運営指針案
- (6) 科学研究費補助金事務 会計管理細則案
科学研究費補助金事務にかかる運営指針および

び科学研究費補助金事務 会計管理細則は文言修正後に確定させて、代議員総会での報告事項とすることが承認された。

- (7) 選挙システム検討 WG の立ち上げについて
選挙システム検討 WG の立ち上げが承認された。
- (8) 事務局の作業の補助について
事務局の作業の補助について今後事務局で詳細を詰め、後日理事会で説明することとなった。

2. 意見聴取事項

- (1) 学会の支出についての注意点
謝金等支払いについて、委託、謝金、アルバイトの扱いについて注意点が確認された。
- (2) 今後のスケジュール（委員会規定等の改定スケジュール等）
今後のスケジュールが確認された。松井事務局長から説明があった。

3. 報告事項

鳥類目録編集委員会委員長の西海氏から 24 年度 9 月大会での販売に間に合うよう鳥類目録の改定を進めていることが報告された。松井事務局長から日本鳥学会の業務改善に向けた取り組みについて事務局で検討を進めていることが報告された。

4. その他

現委員長の早矢仕理事、松井事務局長、綿貫会長、旧委員長の川上理事により基金委の通帳の整理手順が確認された。

5. 連絡事項

第 1 回代議員総会を 3 月 29 日に開催することが確認された。

2024 年 一般社団法人日本鳥学会理事会 メール審議（2024 年 3 月）議事録

日時：2024 年 3 月 23-28 日

方法：電子メール（理事会メーリングリスト）

議長：綿貫 豊（会長）

記録者：松井 晋（理事）

メール審議参加者

理事の総数 7 名

理事回答数 7 名

綿貫 豊（会長・代表理事）、嶋田哲郎（副会長）、

川上和人、高木昌興、高橋満彦、早矢仕有子、松井 晋（事務局長）

監事の総数 2 名

内容を確認監事数 2 名 森口紗千子、関 伸一
事務局 植田睦之（会計幹事）、風間健太郎（庶務幹事）

メール審議の成立

定款第 35 条の規定に基づき、綿貫 豊会長を議長とする理事会メール審議を実施した。理事 7 名全員からの回答を得て、事務局より定款第 36 条に基づき本審議は有効に成立した旨を伝えた。次いで、議長は、定款第 38 条の規定により、議事録署名人は議長及び内容を確認した監事を指名すべきことになっている旨を説明、関 伸一監事を指名し、本人も承諾した。

1. 審議事項

- (1) 北海道における地域脱炭素化促進区設定への意見書提出（鳥類保護委員会）
意見書案について理事からいくつか文言修正が提案され、提出が承認された。

2024 年 第 2 回一般社団法人日本鳥学会 理事会議事録

日時：2024 年 6 月 11 日 13 時 00 分 - 15 時 00 分
場所：Zoom 会議

議長：綿貫 豊（会長）

記録者：三上かつら（事務局補佐）、風間健太郎（庶務幹事）

出席者

理事の総数 7 名

出席理事数 7 名

綿貫 豊（会長・代表理事）、嶋田哲郎（副会長）、川上和人、高木昌興、高橋満彦、早矢仕有子（基金運営委員長）、松井 晋（事務局長）

監事の総数 2 名

出席監事数 2 名 関 伸一、森口紗千子

事務局 植田睦之（会計幹事）、風間健太郎（庶務幹事）

オブザーバー 水田 拓（旧英文誌編集委員長）

開会

定款第 35 条の規定に基づき、綿貫 豊会長が議長となり理事会を開会した。事務局より定款第 36 条に基づき、定足数について、理事 7 名が出席しており、本日の会議は有効に成立した旨を告げた。

次いで、議長は、定款第 38 条の規定により、議事録署名人は議長及び出席した監事を指名すべきことになっている旨を説明、関 伸一監事を指名し、本人も承諾した。

1. 審議事項

- (1) 黒田賞・中村司奨励賞の受賞者候補
黒田賞の受賞者として森口紗千子氏、中村司奨励賞の受賞者として飯島大智氏を決定した。
- (2) 日本鳥学会 2023 年度大会（金沢大学）大会報告について
日本鳥学会 2023 年度大会の決算が承認された。
- (3) 鳥の学校第 15 回テーマ別講習会『標本製作講習』の共催について
日本鳥学会 2024 年度大会時に開催される鳥の学校について、山階鳥類研究所との共催とすることが承認された。
- (4) ジャパンバードフェスティバル 2024 への後援申請について
申請のあったジャパンバードフェスティバル 2024 への後援について、理事会閉会後にメールにて審議され 6 月 14 日に承認された。

2. 意見聴取事項

- (1) 定款施行規則の改定案
一般社団法人日本鳥学会の定款施行規則について、代議員選挙の規則に関する項目の改定を行うため、次の理事会において審議事項として提案することとなった。
- (2) 英文誌のオープンアクセスについて
Ornithological Science のオープンアクセス化および 3 年間のトライアルに関し、次の理事会において英文誌編集委員会が審議事項として提案することとなった。
- (3) 学会大会参加費の日安金額の設定について
学会大会参加費の日安金額の設定、日程決定等の方針を大会運営指針としてまとめ、次の理事会において大会支援委員会が審議事項として提案することとなった。
- (4) 総会決議についての鳥類保護委員会の考え方
- (5) 総会決議・鳥類保護委員会決議の手続きについて（内規）
 - (4) および (5) について次の理事会において鳥類保護委員会が審議事項として提案することとなった。意見書等の文書提出が円滑となるように理事会や事務局が文書作成をサポート

トする体制について提案がなされた。

- (6) 学会図書の今後の管理・販売について
学会図書（和文誌、英文誌、用語集、鳥類目録、要旨集）の保管と販売方針について、検討を始めることが提案された。

3. 報告事項

- (1) 理事会メール審議議事録案
理事会のメール審議についても議事録を残して公開することが確認された。
- (2) 和文誌最新号（73 巻 1 号）の印刷ミスについて
再印刷再発行はせず、落丁部分は PDF で送付、次号末尾にお詫びと落丁部分を掲載する方針が確認された。
- (3) 日本産鳥類目録第 8 版の進捗状況
9 月ごろに発行できるめどがたったことが報告された。
- (4) 津戸基金によるシンポジウム公募の締め切り変更について
津戸基金公募についても他の各賞と締め切りを同時期にすることが確認された。
- (5) 今後のスケジュール
第 3 回理事会は 8 月ごろに開催することが確認された。

2024 年 一般社団法人日本鳥学会理事会 メール審議（2024 年 6 月）議事録

日時：2024 年 6 月 26-27 日

方法：電子メール（理事会メーリングリスト）

議長：綿貫 豊（会長）

記録者：松井 晋（理事）

メール審議参加者

理事の総数 7 名

理事回答数 7 名

綿貫 豊（会長・代表理事）、嶋田哲郎（副会長）、川上和人、高木昌興、高橋満彦、早矢仕有子、松井 晋（事務局長）

監事の総数 2 名

内容を確認監事数 2 名 森口紗千子、関 伸一
事務局 植田睦之（会計幹事）、風間健太郎（庶務幹事）

メール審議の成立

定款第 35 条の規定に基づき、綿貫 豊会長を議長とする理事会メール審議を実施した。理事 7 名からの回答を得て、事務局より定款第 36 条に基づ

き本審議は有効に成立した旨を伝えた。次いで、議長は、定款第 38 条の規定により、議事録署名人は議長及び内容を確認した監事を指名すべきことになっている旨を説明、関 伸一監事を指名し、本人も承諾した。

1. 審議事項

(1) 津戸基金によるシンポジウム公募の選考結果
基金運営委員会により選考された 2024 年度津戸基金で助成するシンポジウムが全会一致で承認された。

テーマ：大阪湾・海鳥っぶシンポジウム・この鳥を見よ

主催者：きしわだ自然資料館（岸和田市教育委員会）

2024 年 第 1 回一般社団法人日本鳥学会 代議員総会議事録

日時：2024 年 3 月 29 日 14 時 00 分 - 16 時 00 分

場所：Zoom 会議

議長：綿貫 豊（会長）

記録者：風間健太郎（庶務幹事）

出席者

代議員の総数 29 名

出席代議員数 25 名

綿貫 豊（会長・代表理事）・嶋田哲郎（副会長・理事）・小田谷嘉弥・風間健太郎（庶務幹事）・亀田佳代子・川上和人（理事）・齋藤武馬・澤 祐介（鳥類保護委員会委員長）・白木彩子・先崎理之・高木昌興（理事）・高橋満彦（理事）・田尻浩伸・出口智広・永田尚志・中原 亨・西海 功（鳥類目録編集委員会委員長）・藤田 剛・松井 晋（事務局長・理事）・三上 修・三上（河野）かつら・水田 拓・森 さやか・森口紗千子（監事）・吉田保志子

委任状出席 2 名 早矢仕有子（理事）・山口典之

監事の総数 2 名

出席監事数 1 名 関 伸一

事務局 植田睦之（会計幹事）、風間健太郎（庶務幹事）

開会

定款第 20 条の規定に基づき、綿貫 豊会長が議長となり代議員総会を開会した。事務局より第 19 条に基づき、定足数について、代議員 27 名（うち委任状 2 名）が出席しており、本日の会議は有効に成立した旨を告げた。

次いで、議長は、定款第 22 条の規定により、議事録署名人は議長及び出席者した代議員 2 名から指名すべきことになっている旨を説明、松井 晋代議員、風間健太郎代議員を指名し、本人も承諾した。

1. 審議事項

(1) 2023 年度決算について

単年度収支は 30 万円ほどの赤字、特別会計は 9.6 万円の赤字であることが報告され、2023 年度決算が承認された。

(2) 定款施行規則案

将来的に選択しうる英文誌 OA 化にともなって、会員の権利が減少する可能性があることについて今後検討する必要があることが指摘された後、定款施行規則案が承認された。

2. 報告事項

(1) 謝金・賃金規程

(2) 旅費規程

(3) 科学研究費補助金事務にかかる運営指針

(4) 科学研究費補助金事務 会計管理細則

以上 4 点が報告され運用上の注意点が確認された。

(5) 選挙システム検討 WG の立ち上げについて

WG の立ち上げ、今後メンバーを決定して電子投票における匿名性についての検討することが報告された。

(6) 鳥類目録改定の進捗状況（鳥類目録編集委員会）

西海代議員（鳥類目録編集委員長）より、4/1 に暫定完成版を公開し、パブコメを受け付け、9 月に出版・販売ができる予定であることが報告された。

(7) 地域脱炭素化促進事業の促進区域の設定に関する環境配慮基準（素案）に関する意見書の提出について

澤代議員（鳥類保護委員長）より、今回は保護委員長名で意見書を提出することが報告された。

(8) 日本鳥学会の業務改善に向けた取り組み（事務局）

(9) 事務局の作業の補助について

以上 2 点について、鳥類目録編集、風発 WG、図書管理、鳥類保護、広報委から業務改善希望があったこと、今後事務局の作業補助費として年間 30 万円あまりの支出を検討している

ことが報告された。

3. 意見聴取事項

- (1) パブリックコメントの一環としての和名に関する意見分布調査
西海代議員（鳥類目録編集委員長）より、モウコメダイチドリとシナカワウの和名について代議員の意見分布が調査された。

4. その他

学会の支出についての注意点および今後のスケジュールが確認された。

き本審議は有効に成立した旨を伝えた。次いで、議長は、定款第 38 条の規定により、議事録署名人は議長及び内容を確認した監事を指名すべきことになっている旨を説明、関 伸一監事を指名し、本人も承諾した。

1. 審議事項

(1) 津戸基金によるシンポジウム公募の選考結果
基金運営委員会により選考された 2024 年度津戸基金で助成するシンポジウムが全会一致で承認された。

テーマ：大阪湾・海鳥つぼシンポジウム・この鳥を見よ

主催者：きしわだ自然資料館（岸和田市教育委員会）

2024 年 一般社団法人日本鳥学会理事会 メール審議（2024 年 7 月）議事録

日 時：2024 年 7 月 18–22 日

方 法：電子メール（理事会メーリングリスト）

メール審議参加者

理事の総数 7 名

理事回答数 7 名

綿貫 豊（会長・代表理事）、嶋田哲郎（副会長）、川上和人、高木昌興、高橋満彦、早矢仕有子、松井 晋（事務局長・議事録作成）

監事の総数 2 名

内容を確認した監事数 2 名 森口紗千子、関 伸一

事務局 植田睦之（会計幹事）、風間健太郎（庶務幹事）

議長 会長 綿貫 豊

メール審議の成立

定款第 35 条の規定に基づき、綿貫 豊会長を議長とする理事会メール審議を実施した。理事 7 名からの回答を得て、事務局より定款第 36 条に基づき本審議は有効に成立した旨を伝えた。次いで、議長は、定款第 38 条の規定により、議事録署名人は議長及び内容を確認した監事を指名すべきことになっている旨を説明、森口紗千子監事を指名し、本人も承諾した。

審議事項

(1) 世界自然遺産・知床における携帯電話基地局と太陽光パネルの設置計画の中止を求める意見への賛同について

2024 年 一般社団法人日本鳥学会理事会 メール審議（2024 年 6 月）議事録

日 時：2024 年 6 月 26–27 日

方 法：電子メール（理事会メーリングリスト）

メール審議参加者

理事の総数 7 名

理事回答数 7 名

綿貫 豊（会長・代表理事）、嶋田哲郎（副会長）、川上和人、高木昌興、高橋満彦、早矢仕有子、松井 晋（事務局長・議事録作成）

監事の総数 2 名

内容を確認した監事数 2 名 森口紗千子、関 伸一

事務局 植田睦之（会計幹事）、風間健太郎（庶務幹事）

議長 会長 綿貫 豊

メール審議の成立

定款第 35 条の規定に基づき、綿貫 豊会長を議長とする理事会メール審議を実施した。理事 7 名からの回答を得て、事務局より定款第 36 条に基づ

日本環境会議より発出された世界自然遺産・知床における携帯電話基地局と太陽光パネルの設置計画の中止を求める意見書について、日本鳥学会でも本意見書の趣旨に賛同することを鳥類保護委員会の委員長名で表明することが全会一致で承認された。

2024年一般社団法人日本鳥学会理事会 メール審議（2024年10月）議事録

日時：2024年10月23-28日

方法：電子メール（理事会メーリングリスト）

メール審議参加者

理事の総数 7名

理事回答数 7名

綿貫 豊（会長・代表理事）、嶋田哲郎（副会長）、川上和人、高木昌興、高橋満彦、早矢仕有子、松井 晋（事務局長・議事録作成）

監事の総数 2名

内容を確認した監事数2名 森口紗千子、関 伸一

事務局 植田睦之（会計幹事）、風間健太郎（庶務幹事）

議長 会長 綿貫 豊

メール審議の成立

定款第35条の規定に基づき、綿貫 豊会長を議長とする理事会メール審議を実施した。理事7名からの回答を得て、事務局より定款第36条に基づき本審議は有効に成立した旨を伝えた。次いで、議長は、定款第38条の規定により、議事録署名人は議長及び内容を確認した監事を指名すべきことになっている旨を説明、関 伸一監事を指名し、本人も承諾した。

審議事項

(1) 上関使用済み核燃料施設建設の要望書連名について

鳥類保護委員会の委員長が他学会の保全委員会の委員長と連名で、上関使用済み核燃料施設建設に関する要望書を関係各所に提出することが全会一致で承認された。

2024年第3回一般社団法人日本鳥学会 理事会議事録

日時：2024年8月21日（水）17時00分-19時20分

場所：Zoom 会議

出席者

理事の総数 7名

出席理事数 6名

綿貫 豊（会長・代表理事）、嶋田哲郎（副会長）、川上和人、高木昌興、早矢仕有子（基金運営委員長）、松井 晋（事務局長）

監事の総数 2名

出席監事数 1名 関 伸一

事務局 植田睦之（会計幹事）、風間健太郎（庶務幹事・議事録作成）

事務局補佐 三上かつら（議事録作成）

オブザーバー 上野裕介（英文誌編集委員会委員長）、堀江明香（企画委員会・ダイバーシティ推進WG代表）、上沖正欣（選挙システム検討WG長、選挙管理委員会委員長）・澤 祐介（鳥類保護委員会委員長）

議長 会長 綿貫 豊

開会

定款第35条の規定に基づき、綿貫 豊会長が議長となり理事会を開会した。事務局より定款第36条に基づき、定足数について、理事6名が出席しており、本日の会議は有効に成立した旨を告げた。次いで、議長は、定款第38条の規定により、議事録署名人は議長及び出席した監事を指名すべきことになっている旨を説明、関 伸一監事を指名し、本人も承諾した。

1. 審議事項

(1) 英文誌のオープンアクセスについて

日本鳥学会英文誌（Ornithological Science 誌）のオープンアクセス化について、UniBioPressのダイヤモンド・トライアルプランに参加することが承認された。

(2) 定款施行規則の改正案

日本鳥学会の代議員選挙に関する定款施行規則について、名称の修正や、代議員選挙とその定員数、首席代議員選出のシステムに関する改正案が承認された。これにより、本件は代議員総会での審議事項となった。

(3) 委員会規程等の改正案

法人移行にともなう各委員会（基金運営委員を除く、別項）の委員会規程の改正案が承認され、本日より施行となった。

2. 意見聴取事項

(1) 基金運営委員会関連の規程改正案

基金運営委員会の規程改正案構築に伴い、語句の用法、委員会の役割、資金の管理方法等を含む再構築案が議論されている旨が報告された。

3. 報告事項

公正な選挙システムの検討

鳥学会の選挙システムに関し、選挙システム検討WGにより、秘匿性と公正性の担保について複数の方法を対象に比較検討が行われた結果、2025年の選挙でも現行通り春恒社のマイページを使った電子システムで選挙を行うこと、および定款施行規則に投票履歴を含む個人情報の受け渡し禁止を明記することが提案された。本理事会での承認を経て、次の代議員総会に諮られることとなった。学会決議についての鳥類保護委員会の考え方
学会決議・鳥類保護委員会決議の手続きについて（内規）

鳥類保護に関する決議を2つの方法で発出できる等を含む鳥類保護委員会の考え方、および手続きについての内規の改正案について報告がなされた。これらの内容はウェブサイト上で8月21日を以て公開されている。

ダイバーシティ推進ワーキンググループの取り組み

2024年1月に発足したダイバーシティ推進ワーキンググループのメンバーと現在と今後の活動状況について報告があった。9月の年次大会中に行われるランチョンセミナーに関連し、一般会計由来の委員会裁量予算の使い方も含めた討議がなされ、事後評価とルール整備の必要性が提案された。日本鳥学会大会運営指針（大会支援委員会）

植田大会支援委員長から、大会運営指針、参加費の目安、2年ごとの参加費の見直し等に関する説明がなされた。

(6) 2026年度年次大会開催地

植田大会支援委員長から、現状についての情報提供あり、詳細は後日改めて報告がある予定。

(7) レタープレスと文誌73巻1号の印刷ミスのお詫びと対策

松井事務局長より、和文誌の落丁についてレタープレスからのお詫びに関する説明がなされた。落丁で掲載されなかった著者らへの個別の説明が必要。

4. その他

世界遺産知床に携帯基地局の建設問題について、日本鳥学会として建設見直し意見に賛同し、声明

発表に加わった。

総務省統計局からアンケート、事務所の総売り上げとか資本金のアンケートについて、植田会計幹事への相談依頼があった。

5. 連絡事項

臨時代議員総会は2024年8月28日に開催されることが確認された。

2024年第4回一般社団法人日本鳥学会 理事会議事録

日時：2024年12月10日（火）15時00分～17時50分

場所：Zoom会議

出席者

理事の総数 7名

出席理事数 6名

綿貫 豊（議長・代表理事）・嶋田哲郎（副会長）、川上和人、高木昌興、早矢仕有子（基金運営委員長）、松井 晋（事務局長）

監事の総数 2名

出席監事数 2名 関 伸一、森口紗千子

事務局：植田睦之（会計幹事）

事務局補佐 三上かつら（議事録作成）

議長 会長 綿貫 豊

開会

定款第35条の規定に基づき、綿貫 豊会長が議長となり理事会を開会した。事務局より定款第36条に基づき、定足数について、理事6名が出席しており、本日の会議は有効に成立した旨を告げた。次いで、議長は、定款第38条の規定により、議事録署名人は議長及び出席した監事を指名すべきことになっている旨を説明、森口紗千子監事を指名し、本人も承諾した。

1. 審議事項

(1) 旧任意団体の各基金から法人が引き継ぐ金額について

旧任意団体日本鳥学会の各基金から一般社団法人日本鳥学会が寄付金として引継ぐ金額が承認された。

(2) 基金運営委員会の名称変更および規定類の改正について

基金運営委員会の名称を学会賞選考委員会に変更することが承認され、一般社団法人日本鳥学会の寄附金等に関する規程（旧基金運用規定）、学会

賞選考委員会規程（旧基金運営委員会規定）、内田奨学賞規程（旧内田奨学賞規定）、黒田賞規程（旧黒田賞規定）、中村司奨励賞規程（旧中村司奨励賞規定）の改正が承認された。

(3) 2025 予算案

理事会からのコメント（条件）付きで予算は承認された。

(4) 功労賞（仮）設置検討グループの設立について

鳥学に関する応報の提供などへの貢献をたたえる「功労賞（仮）」を設置することを検討する功労賞（仮）設置検討グループの設立が承認された。

(5) 2025 年度札幌大会の参加費について

大会参加費の金額が承認された。

(6) 和文誌オープンアクセスの検討のための学会員アンケートのお願い

和文誌委員会よる和文誌のオープンアクセス(OA)化に関するアンケートの実施が承認された。

(7) 2025 年度事業計画案

2025 年度事業計画が承認された。

(8) 各種委員会の新任・退任

各種委員会の新任者が承認され、退任者について報告された。

(9) 「第 2 回オガサワラカワラヒワ保全計画作りワークショップ（本大会）」後援

第 2 回オガサワラカワラヒワ保全計画作りワークショップ（本大会）の後援が承認された。

2. 意見聴取

以下 (1)–(4) について意見交換を行った。

(1) 運営に参加してもらえる若手会員のリクルート

(2) 大会プログラム作成の負担軽減について

(3) 自由集会の多様化に伴うミニシンポ（ワークショップあるいは企画集会）枠の作成

(4) 国際シンポジウムについて（韓国、中国）

(5) 春恒社での学会誌の保管と廃棄について

和文誌と英文誌の在庫保管、販売、在庫処分のルールを決めて実施していくことになった。

3. 報告事項

英文誌編集委員会では学会公式アドレス os-admin@ornithology.jp の運用を 12 月から運開始した。

2024 年 一般社団法人日本鳥学会

臨時代議員総会議事録

日 時：2024 年 8 月 28 日 17 時 00 分–19 時 20 分

場 所：Zoom 会議

出席者

代議員の総数 29 名

出席代議員数 25 名

綿貫 豊（代表理事、会長）・嶋田哲郎（理事、副会長）・小田谷嘉弥・笠原里恵・風間健太郎（庶務幹事・議事録作成）・片山直樹・川上和人（理事）・齋藤武馬・澤 祐介（鳥類保護委員会委員長）・白木彩子・高木昌興（理事）・高橋満彦（理事）・田尻浩伸・出口智広（和文誌編集委員会委員長）・中原 亨・西海 功（鳥類目録編集委員会委員長）・藤田 剛・松井 晋（理事、事務局長）・三上 修・三上（河野）かつら・水田拓・森 さやか・森口紗千子（監事）・山口典之・吉田保志子

委任状出席 3 名 亀田佳代子・先崎理之・早矢仕有子（理事）

監事の総数 2 名

出席監事数 2 名 関 伸一・森口紗千子

各種委員会 上野裕介（英文誌編集委員会委員長）・金井 裕（日本産鳥類記録委員会副委員長）・佐藤 望（企画委員会委員長）・上沖正欣（広報委員会委員長、選挙システム検討 WG 長、選挙管理委員会委員長）・堀江明香（基金運営委員会委員、企画委員会ダイバーシティ推進 WG 代表）事務局 植田睦之（会計幹事、大会支援委員会委員長）

事務局補佐 三上かつら（議事録作成）

議長 会長 綿貫 豊

開会

定款第 20 条の規定に基づき、綿貫 豊会長が議長となり代議員総会を開会した。事務局より第 19 条に基づき、定足数について、代議員 29 名のうち 28 名（うち委任状 4 名）が出席しており、本日の会議は有効に成立した旨を告げた。次いで、議長は、定款第 22 条の規定により、議事録署名人は議長及び出席者した代議員 2 名から指名すべきことになっている旨を説明、後日白木彩子代議員、三上 修代議員を指名し、本人も承諾した。

1. 議題

(1) 定款施行規則の改正案（事務局）

松井事務局長から代議員選挙に関する定款施行規則の改正案について説明がなされた。審議のう え、選挙の匿名性に関する第16条の文言についてのみ再度整理し、代議員間でメール審議とすることとなったが、それ以外の部分は承認された。また会長選挙については、会員に向けたわかりやすい説明資料の必要性が挙げられた。

なお、本議題（定款施行規則の改正案）について、2024年9月1日-7日にかけて代議員メーリングリスト上にてメール審議がなされた。事務局より以下のか所の変更案が提案され、27名からの賛成票を得て承認された。

- ・下記、第16条全体を削除
- 第16条 すべての学会員は代議員選挙における各
有権者の投票内容が特定可能な受け渡し
を行ってはいけない。
- ・第6条に以下のように新たに第2項を建てる
- 第6条 代議員の選出は、電子媒体又は郵送を用
いて行う選挙による。
- 2 前項の選挙における投票の秘密は、これを侵し
てはならない。何人も、投票の秘密を侵す情報
や電子記録等を要求したり、受け渡したりして
はならない。

2. 意見聴取事項

(1) 基金運営委員会関連の規程改正案（基金運営委員会）

綿貫会長および松井事務局長から説明があった。基金という語を変更する必要があること、これを機に、委員会規程を見直し、賞の選定と会計を分ける案、寄付金の扱い、口座の使い方など、運営方法等の整備を図りたい旨が説明された。今回は意見を聴取し、次の理事会で規程改正案を審議する予定。

3. 報告事項

(1) 公正な選挙システムの検討（選挙システム検討WG）

綿貫会長と上沖選挙システム検討WG長から説明があった。定款施行規則に文言を含める、ということは認められたが、文言の表記については後日メール審議がなされる予定。質問は特になかった。

- (2) 各種委員会等報告（各委員会・WG代表者）
- ※各委員会の委員の信任・退任は第4回理事会の議題になる予定

英文誌編集委員会報告：上野英文誌編集委員長

より、英文誌の編集状況、投稿数、電子版のアクセス状況、UniBioPressを通じた売り上げ、IF等について報告がなされた。英文誌のオープンアクセスについて、オープンアクセス化の流れは避けられない時勢であること、BioOneが資金を負担しオープンアクセスの3年間トライアルを始めるというシステムに参加打診があったので、委員会と理事会で審議を行ない、トライアルに参加することになった。

和文誌編集委員会報告

藤田和文誌編集委員より、発行状況、Editor's Choice、投稿数、J-stageでのアクセス状況等について説明がなされた。レタープレスの印刷ミスについて、状況と背景が説明され、刷り直しはしないが、会員MLで全員にお知らせ、PDFを配布、和文誌次号に訂正とお詫びを掲載するという対応をした報告があった。また、和文誌でもオープンアクセス化について議論されており、可能な限りOA化を目指す。ただし、和文誌特有の事情も踏まえ、具体的な方法としてはいまのところは検討中と報告された。いずれ提案がなされる予定。

鳥類保護委員会報告

澤鳥類保護委員長より本年度の活動について報告があった。報告内容は3件の意見書、賛同を表明した文書を提出。知床の携帯基地局建設問題については、非賛同を示し、浦副委員長が記者会見に出席。報告書はウェブサイトで公開され、SNSでも発信されている。フォローアップ、新任者についても報告があった。また、風間風発等対応WG長より、陸上風発にかかるアセスのガイドライン整備が進行中であることが報告されあった。また、学会決議についての鳥類保護委員会の考え方、および学会決議・鳥類保護委員会決議の手続きについて（内規）について、これら2種類の決議の手順とスケジュールに関する説明があり、理事会で承認されたのでウェブ上に公開済みであることが報告された。

日本産鳥類記録委員会報告

金井日本産鳥類記録委員会副委員長より、近況として、記録の記載変更と整理、新しい文献の収集整理、文献作成への協力、目録8版の編集等の活動状況が報告された。今後の記録収集において、文献主義の体制をどうするかを今後検討予定。

大会支援委員会報告

植田大会支援委員長から、法人化で会計が変わる必要があり、東京大会の藤田さん、田尻さんと協力し体制づくりを行っている旨、大会参加費の目安設定、2026年大会開催地の打診状況について報告がなされた。日本鳥学会大会運営指針のなかで、大会参加費の目安を決めるという点について、5年間の収支をもとに、2年ごとに更新する、という旨が明文化される。

鳥類目録編集委員会報告

西海鳥類目録編集委員長から、鳥類目録第8版について、9月の東京大会で販売できる予定であること、次の目録に向けて、修正点や人員体制等について今後整えていく予定、予算案が報告された。京大会では、協力者との意見交換会も開催。新任として青木さんが加わる予定。

企画委員会報告

佐藤 望企画委員長より、活動状況について、鳥の学校の実施、標本作成講習、2025年についても鳥の学校を企画している旨が報告された。男女共同参画について、イベントへの参加状況、次回予定、今大会でのポスター賞について、3部門を設けていることが説明された。中原企画委員より、ポスター賞募集について、生物間相互作用が追加されている旨の補足があった。

ダイバーシティ推進WGの取り組みについて、綿貫会長および堀江企画委員会ダイバーシティ推進WG長から現状と今後の活動予定、とくに今鳥学会大会でのランチョンセミナーの取り組みについての報告があった。

広報委員会報告

上沖広報委員長から、活動状況について、ほぼ例年通りだが、変更点として鳥学通信（ブログ）をワードプレスで内製化したことが挙げられた。その他、アクセス数、発行状況、原稿募集、について、またSNSではフォロワー数は順調に増加していることなどが報告された。

基金運営委員会報告

堀江基金運営委員から、活動状況について、例年通り学会賞の応募を行い、選定結果が承認されたこと、津戸基金シンポジウムについても選定結果が承認された旨が報告された。規程の報告については検討中。津戸基金シンポジウム公募の締切

を学会賞と同じ時期に変更することが理事会で承認済である。

(3) レタープレス和文誌 73 巻 1 号の印刷ミスのお詫びと対策

和文誌の項で説明済み。

(4) 2025 年度大会開催について

高木大会会長から、現状について報告があった。大会会長は早矢仕、高木両氏、大会実行委員長は北大博物館の江田真毅氏が決定しており、その他は調整中である。

(5) 会員動向

松井事務局長より、会員動向について、微増であること、会員総会でも報告予定であることが報告された。

4. 連絡事項

東京大会の会員総会でも各委員会等の代表者から簡潔にご報告願う。

和文誌編集委員会報告

1) 発行状況

73 巻 1 号を 2024 年 5 月に、73 巻 2 号を 2024 年 10 月に発行した。Editor's Choice「注目論文」はそれぞれ、高橋祐亮さんたちによる「農耕地帯で繁殖するチュウヒの狩り場環境選択」と、北川達朗さんたちによる「オオセグロカモメによるカモメ属雛捕食の個体差とその影響」に決まった。

73 巻 1 号 (5 月) 原著 7, 短報 1, 観察記録 7

73 巻 2 号 (10 月) 原著 3, 短報 2, 観察記録 2

2) 投稿・編集状況

今年の編集状況は、下表のとおりである。投稿数は原著論文と短報、観察記録のいずれも順調である。今年投稿された原稿はすべてこのシステムから投稿されている。

	総説	原著	短報	技術報告	観察記録
繰越し	0	5	4	0	5
投稿	3	10	3	0	12
受付	3	8	2	0	10
受理	2	7	3	0	6
編集中	1	5	2	0	9
不受理	0	1	1	0	0

3) J-stage 搭載電子版のアクセス

J-stage における過去 1 年間 (2023 年 1 月 - 12 月) の和文誌掲載論文 (2006 年第 55 巻 1 号 - 2024 年第 73 巻 1 号) に対する全文 PDF アクセス数を調

べた。国別内訳は日本が最も多く 63,975 件 (80%)、次いでアメリカが 10,824 件 (14%)、中国が 904 件 (1.1%)、ドイツが 704 件 (0.8%)、フランスが 532 件 (0.6%) だった。国外からのダウンロードの比率は、24% (2019)、26% (2020)、31% (2021) と徐々に上昇していたが、その後、27% (2022)、19% (2023) と減少した。ダウンロード数上位 20 の種別は総説 13、原著論文 4、短報 2、観察記録 1 で、被引用数は過去に出版されたものほど多くなっていた。

(和文誌編集委員長)

英文誌編集委員会報告

1) 発行状況

第 23 巻 1 号 (原著 2 編、短報 4 編) を 2024 年 1 月に、2 号 (原著 4 編、総説 1 編、短報 2 編) を 9 月に発行した。Editor's Choice はそれぞれ Toru NAKAHARA 氏らによるシロガシラの日本本土への生息域の拡大に関する論文と、Nao NAGATANI 氏らによるヒナ飼育中のウトウのエネルギー消費量に関する論文とした。

2) 編集状況

2024 年 1 月 -12 月

総投稿数 43 (前年比 1.26 倍)

受理数 7 採択率 41.2% [受理数 / (総投稿数 - 審査中数 - 取り下げ数)]

審査中 25

取り下げ 1

却下数 9 (うち編集委員会却下数 9)

前年に比べ投稿数は増加したが、昨年同様、査読まで回らず編集委員会内の審査で却下された論文も多かった。完全オンライン化や OA 化トライアル参加について広報し、投稿数の増加を図るとともに、投稿論文の質の底上げが引き続き重要な課題である。

3) その他

2023 年 7 月 -2024 年 6 月の電子版アクセス状況は、資料トップへは昨年比 3% 減の 6,067 件、全文 PDF へは 28% 増の 21,324 件であった。2023 年のインパクトファクターは 0.5 (Ornithology カテゴリ 29 誌中 22 位) で、昨年比 IF は低下し、順位は上昇した (この 3 年間の推移は 0.795 → 0.600 → 0.5)。24 号からは、BioOne のオープンアクセス化トライアル (3 年間) に参加し、試行的に全論文をオープンアクセス化する予定。

(英文誌編集委員長)

鳥類保護委員会報告

1) 過去の決議にかかる案件の現状について

「(仮称) 苫東厚真風力発電事業に対する事業中止要望書 (2021 年 11 月 25 日発出)」のフォローアップとして、日本鳥学会が要望書提出時に共同記者発表を行った地域の市民団体「ネイチャー研究会 in むかわ」が実施する事業中止を求める署名活動への広報協力を行った。

2) 総会決議の申し込み及び委員長名要望書について

2024 年 8 月の代議員総会にあたっての決議案の申し込みはなかった。鳥類保護委員長名での意見書・要望書等の文書として以下の 4 件を発出した。

2024 年 4 月 18 日付 地域脱炭素化促進事業の促進区域の設定に関する環境配慮基準 (素案) に関する意見書

2024 年 5 月 10 日付 海鳥の集団繁殖地における外来哺乳類対策を求める要望書

2024 年 7 月 22 日付 世界自然遺産・知床における携帯電話基地局と太陽光パネルの設置計画の中止を求める意見への賛同について

2024 年 12 月 12 日付 「瀬戸内海 (上関) における中国電力の使用済み核燃料中間貯蔵施設建設計画」に関する要望書 (本会他 6 学会と連名)

3) 風力発電等対応 WG の活動について

WG 長から「洋上風力発電建設にかかる環境アセスメントガイドライン」に関する作成・承認・公開及び自由集会開催について、これまでの経緯と今後の日程状況の説明が行われた。同ガイドラインは 2023 年度総会で報告され承認された。「風力発電の導入についての日本鳥学会の基本的な考え方」とともに、鳥学会ウェブサイトのトップページで公開されている。

4) 保護委員会規定改定について

鳥学会の一般社団法人化に伴い、「総会決議についての鳥類保護委員会の考え方」及び「総会決議・鳥類保護委員会決議の手続きについて (内規)」を改訂した。

5) 委員の退任・新任について

須藤明子氏、守屋年史氏が 2025 年から新任となった。

(鳥類保護委員長)

日本産鳥類記録委員会報告

日本産鳥類記録委員会は、2024 年度において以

下の活動を行った。委員会はオンラインにて開催した。

1) 目録第7版の記述事項に関する質問への対応

目録第7版の記述のうち、各地の生息記録に関する一般、もしくは他委員会からの質問に答えるための文献資料等の確認作業。

2) 目録の記載変更根拠資料の整理

目録6版から7版への記載変更の根拠文献や情報の確認を行い、資料として整理する。

上記2項目は、目録8版の記録整理のため目録編集委員会の共通業務として実施した。具体的には、目録8版原稿へのパブリックコメントとして収集された地方の分布記録の確認と目録への記載の適否の判断を委員間の協議により実施した。

3) 日本産鳥類の記録文献収集および整理

稀種の記録、各地鳥類相、標本目録等の記述が掲載されている、日本産鳥類の記録に関する文献の収集と整理を行った。これらは今まで同様、ある程度まとまりがついたところで、随時和文誌上に公表していく予定である。

4) 日本における鳥類の記録収集と整理

未だ文献化されていない日本産鳥類の記録（インターネット上に公表された記録、個人的伝聞による記録など）についての情報の収集と整理を行った。

5) 日本産鳥類の記録に関する文献作成への協力

当委員会の委員を通して要請があった場合に限って、目録、報告書、論文の作成時に過去の記録などが明らかでない場合に、その探索と提供を行った。

(日本産鳥類記録委員長)

目録編集委員会報告

目録第8版出版に向けた編集作業は、分類と記録それぞれの委員会で適宜オンライン会議をもち進めてきたが、目録委員会全体ではオンライン会議を1月15日、3月1日、3月21日、5月31日、7月25日、8月8日、8月27日の計7回開催して編集作業等を進め、9月13日に出版することができた。東京大会で販売を開始し、9月14日には地域協力者およびその他の協力者との意見交換会をもち、第8版の総括と第9版に向けての議論を開始した。12月26日には東京上野でハイブリッド会議をもち、2025年度の作業目標を次の通り話し合った。第8版についての正誤表作成、分類と和名についての解説作成、質問対応をおこなう。また今後の分類等の変更を10年後ではなくより頻度

高く公表していく方法や頻度について具体化をおこなう。さらに来年度以降に向けた委員のさらなる強化を検討する。

(目録編集委員長)

企画委員会報告

1) 鳥の学校

日本鳥学会2024年度大会にあわせて鳥の学校(第15回テーマ別講習会)「標本製作講習」を開催した。

2) ダイバーシティ推進ワーキンググループ

2024年1月、委員会内に新規ワーキンググループとして設立された。2024年度大会にあわせてダイバーシティランチョンセミナーを開催した。第22回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム(2024年10月12日、オンライン開催)に委員9名が参加した。男女共同参画学協会連絡会定時総会と運営委員会に委員が参加した。

3) 日本鳥学会ポスター賞の実施

2024年度大会にあわせて第8回日本鳥学会ポスター賞を実施した。「①繁殖・生活史・個体群・群集・生物間相互作用」「②行動・進化・形態・生理」「③生態系管理/評価・保全・その他」の3部門に対して各1名の受賞者を選定し、公表した。

(企画委員長)

広報委員会報告

1) ウェブサイトの更新

事務局、各委員会などから月に数件の更新依頼があり、ほぼ数日以内に処理できている。アクセス解析によると1日に約1,500件(45,000件/月)の訪問がある。閲覧数が多いのは鳥学通信、日本鳥類目録、リンク・研究室情報のページとなっている。鳥類目録発行のためか、アクセス数は昨年の約2倍程度となっている。

2) 鳥学通信の発行

掲載記事案を共有し、原稿依頼を委員間で分担して行っている。平均月2報以上の目標を達成できており、アクセス解析によると1日に約150件(4,500件/月)の訪問がある。年次学会や研究活動の様子などを学会内外にアピールするための、貴重なプラットフォームとなっている。

3) 広報委員会運営 SNS の運用状況

Facebook と X (Twitter) で、鳥学通信の新規記事、大会事務局や学会事務局からのお知らせの一部を配信している。フォロワー数は両 SNS とも昨年から増加し、2024年12月現在 Facebook が約

3,000名(約300名増), X(Twitter)が約6,000名(約2,000名増)となっており, 鳥学会の活動内容を一般へ広報する重要な役割を果たしている。

4) 2024年度大会へのウェブサイトとメールアドレスの提供

大会実行委員会からの要請に基づき, 大会ウェブサイト用のテンプレートとサーバースペース, 大会事務局用メールアドレスを提供した。

(広報委員長)

事会の承認を得た。

(大会支援委員長)

基金運営委員会報告

1) 2024年度学会賞

黒田賞は森口紗千子氏, 中村司奨励賞は飯島大智氏を受賞候補者として選定し, 理事会で承認された。内田奨学賞は対象者がなかった。詳細は前号(日本鳥学会誌73巻2号)で報告済み。

2) 2024年度津戸基金助成

3件の応募の中から, 風間美穂氏を候補者として選定し, 理事会で承認された。詳細は前号(日本鳥学会誌73巻2号)で報告済み。

3) 2025年度学会賞等募集

黒田賞, 内田奨学賞, 中村司奨励賞の募集を開始した。津戸基金によるシンポジウム開催助成, および, 伊藤基金によるIOC2026参加補助金の募集を開始した。

(基金運営委員長)

大会支援委員会報告

1) 2023年度金沢大会の支援

大会報告・決算・監査のサポートを実施した。

2) 2024年度東京大会の支援

法人化されての最初の大会ということで, 特に会計処理の方法など実行委員とともに新たな体制構築を進めた。

3) 2025年度札幌大会の支援

実行委員会に対して, 情報提供等を行った。

4) 2026年度大会の検討

大会開催の打診を行なった。大学との調整ができていないのでまだ公表できないが, 開催の内諾は得ることができている。

5) 大会参加費の目安金額を策定

法人化により, 大会予算の決定時期が早まったこと, 大学の施設予約を早期にすることが難しくなっている。そのため予算作成をこれまで通り作成するのが難しくなっていることなどから, 過去の大会収支をもとに参加費の目安を決め, それで予算をつくることを「大会運営指針」で定め, 理